

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

宇津木正紀委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 順位1番、議席番号1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 おはようございます。初めての予算総括質疑ということで、ふなれでありますので、よろしく願いいたします。私は、生きがいと活力がある長井市になることを願い、予算総括をいたします。

平成27年度長井市一般会計補正予算第4号、10ページ、2款1項2目広報費、細目番号001、市報等発行業務420万5,000円、さらに、11ページ、2款1項6目企画費、細目番号030、ながいシティプロモーション推進事業592万8,000円に関連して、山岳観光の情報発信と魅力アップについて質問いたします。

私は、さきの市議会議員選挙におきまして、主な8つの政策の1つに、環境を守り、利活用を、豊かで多様な自然環境を守り、観光や市民の余暇活動に利用できるように取り組みますと掲げました。昨年の9月議会で我妻前議員が山岳観光について質問されました。また、先日の16日には渡部議員が一般質問で山岳観光に触れ、大変うれしく感じたところございました。私は、少し違った切り口、視点から質問したいと思っております。

今や登山といえば百名山が有名であります。昨年、BSプレミアムで放送されました「グレートトラバース～日本百名山一筆書き踏破～」が放映されました。この番組は、アドベンチャーレーサー、田中陽希さんが日本の百名山を一筆書きで踏破する様子を迫ったドキュメンタリーでありました。ふだん山に登らない人も視聴

され、大きな反響があったことは記憶に新たなことです。日本百名山とは、1964年、昭和39年に深田久弥氏が選定したものです。日本百名山とは別に、さらに百名山ですが、日本二百名山と日本三百名山があります。日本百名山の後に選定されたのは日本三百名山でした。日本三百名山は、1978年、昭和53年、日本山岳会が選定したもので、深田久弥氏の日本百名山に二百名山を加えたものです。

長井市の名山、祝瓶山は、この三百名山に選定されております。日本二百名山は、日本三百名山が選定された6年後、1984年、昭和59年、深田クラブが創立10周年記念に選定しました。日本百名山に漏れた40山を含み、日本百名山に加えた百山であります。日本二百名山には、このような案内本も、上、中、下と3巻から成る登山ガイドですが、このようなものも出版されて人気もあります。非常に残念なことに、祝瓶山は日本二百名山に選定されませんでした。祝瓶山が日本二百名山に選定されなかったことを深田クラブに私は異議申し立てをしたいと思っています。

一昨年、新潟県と福島県の境にそびえる御神楽岳に登ったとき、横浜市から来られた60代後半のご夫婦とお話しする機会がありました。そのご夫婦は、日本百名山を全て踏破し、日本二百名山に5年計画で挑戦中でした。ご夫婦は、御神楽岳の麓の温泉宿に泊まり、地元の経済効果も大きなものがあります。長井市の祝瓶山は日本三百名山ですが、日本二百名山を踏破したら、ぜひ祝瓶山においでくださいってお願いしてみました。そのご夫婦は、もう年で、日本三百名山は無理だろうとおっしゃっておりました。

さて、山形県の山で日本百名山に入っているのは6座ありまして、朝日岳、飯豊山、吾妻山、蔵王山、月山、鳥海山であります。日本二百名山は、神室山と船形山、以東岳の3座でありませぬ。日本三百名山は、祝瓶山と摩耶山の2座だ

けです。日本二百名山には漏れたものの、日本三百名山に入っていることをPRしてはどうかと考えております。

今回の質問については、日本三百名山の1つ、祝瓶山を中心に進めたいと思っております。

市で山岳観光にかかわる業務は、3つあるというふうに思っております。1つ目は、ハード面での山岳観光施設の整備と管理。2つ目は、山岳観光の情報発信。3つ目が、山岳観光の魅力、知名度アップと考えております。

1つ目のハード面の山岳観光施設の整備と管理については、山岳観光の施設のハード面の整備については、登山道の整備、避難小屋、トイレなどの施設整備、案内標識の設置と管理、アクセス道路の整備が上げられると思います。

登山の魅力をアップするには、ハード面の山岳観光施設の整備と管理が大事です。登山道の整備では、祝瓶山頂から鈴振り尾根、小国町側の分岐までの区間が何年も刈り払いされず、荒れていた時期がありました。登山道がやぶになっていて、道形もわからないほどの時期もありました。そのときは長井市の財政が非常に厳しい時期で、登山道整備に予算が回せなかったのではないかと思っております。長井市の財政状況が改善された現在、しっかりとした登山道整備を望むところでございます。

祝瓶山荘前のトイレは、まだぽっちゃんトイレであります。ぜひ、長井ダム湖面広場近くにあるようなバイオトイレに切りかえられないか、例えば宝くじ助成を利用して設置できないか、検討していただけないか。登山には女性が多くいらっしやいます。気持ちよく利用できる清潔なトイレを望みます。

また、新たな施設をつくらなくても既存の施設の利用があります。長井ダムでつくっていただいた祝瓶山荘北隣にある施設ですが、太陽光と風力を使い発電し、利用できる施設であります。この施設が利用できれば、登山の魅力は大

いに向上すると思えます。これらのことについて商工観光課長に伺います。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 宇津木委員のご質問にお答えをさせていただきます。

ハード面の山岳観光施設の整備と管理の部分で、特に登山道、避難小屋、トイレ等の施設整備が重要で、長井ダムでつくりました祝瓶山荘隣の施設の活用をというふうなご質問と受け取っております。

ご指摘いただきましたとおり、奥山の環境整備につきましては困難な状況でございます。まず、電気がないことがありまして、かつ自然環境への配慮等の面もでございます。このような状況が整備が進まない理由の一つとなっているのが実情でございます。ご提案がありました国の施設であります避難小屋につきましては、過去には、市民登山の折、使用させていただいた経過もございますが、近年は利用してございません。使用に当たりましては、管理や使用規則などの整備が必要と思われまますので、今のところ国との調整が整っていない状況でございますので、今後、関係課並びに関係機関と相談の上、検討してまいりたいというふうに思っております。

また、公衆用トイレにつきましては、バイオトイレの導入ということでご提案をいただきましたが、こちらにつきましても、国や県の補助メニューなどを調査しながら検討してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。ぜひ避難小屋のほうは国との調整を進めていただければと思いますし、バイオトイレについてもご検討いただいて、いい補助メニューを探して進めていただければありがたいと思います。

次に、山岳観光の情報発信の項に移りたいと思います。

日本三百名山の祝瓶山は、標高が1,417メートルしかありませんが、ピラミダルな山容は目を引くものがあります。日本山岳会発行の「山岳」に掲載された岩永信雄氏の昭和2年3月28日から29日の山行記録によると、「柴倉山山頂から祝瓶山を見て、その颯爽たる英姿はマッターホルンにも似て。」と記載されています。東北のマッターホルン祝瓶山は、この記録によって始められたと言われておるところです。このマッターホルンの話を広めたのは、長井山岳会の梅津正紀氏と当時の長井市長、斎藤彌助氏であったとされています。残念ながら、その後、東北のマッターホルンというキャッチコピーについては積極的に祝瓶山のPRに使われてこなかったようでもあります。

私もいろいろ調べてみたんですが、昭和30年代、40年代の観光パンフレットを市立図書館や文教の杜で探してみたんですが、見つからなく、ただ、市立図書館では昭和37年と41年の市勢要覧を探していただきました。37年の市勢要覧には、日本アルプス級の山として紹介されておりまして、昭和41年の市勢要覧には朝日連峰中の鋭鋒、祝瓶山というふうに紹介されておるところでした。その後、昭和50年代の前半、祝瓶山に登ったある青年が、祝瓶山の麓にある祝瓶山荘から祝瓶山を見て、そのときチョコレートの表紙に印刷されたマッターホルンと祝瓶山が似ていることに気づき、東北のマッターホルンではないかということで市の広報紙や観光パンフレットで紹介して、このキャッチコピーが浸透してきたというふうに私は思っているところです。

市制60周年記念の市勢要覧、こちらのほうには、13ページになりますが、木地山ダム湖と祝瓶山が紹介されてまして、括弧書きで日本三百名山、東北のマッターホルンというふうに紹介

されております。それから観光パンフレットにつきましても、9ページのほうに、現在の観光パンフレットですが、こちらのほうにも木地山ダム湖と祝瓶山の写真が掲載されておりまして、文中説明で、東北のマッターホルンと言われるということで紹介されております。ぜひこれからも観光パンフレットや市のPR、市のホームページやフェイスブックでも日本三百名山、東北のマッターホルンを使っていくようにしたらどうか、商工観光課長に伺います。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 宇津木委員からありました、祝瓶山のPRのために日本三百名山、東北のマッターホルンということを使ってはというご質問に対してお答えをさせていただきます。

委員がおっしゃいますとおり、祝瓶山につきましても、東北のマッターホルンと言われまして、登山者から愛されている状況でございます。祝瓶山を目指される方が大変多くいらっしゃるというふうに私どもも認識しております。平成15年になりますが、長井市に皇太子がおいでになられた際も、ここから祝瓶山は見えませんかというふうにも伺っております。長井市の観光PRをする上で大変重要な位置づけだというふうに思っておりますので、ご提案いただきましたように、もっともっと祝瓶山につきまして広報をしてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。ぜひそのようにPRしていただければと思います。あと、市のホームページには、地域づくり推進課長、フェイスブックには、総合政策課長には答弁を求めないところですが、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

登山にはどんな情報が求められているか、まず、アクセス道路とか登山道の情報は当然必要な情報ですが、その登るときの周辺情報として

5つほど私は必要ではないかというふうに考えております。まず1つが、コンビニの場所です。コンビニについては、24時間営業ということで、早朝から食料や飲料を買えるということで、やはりできるだけ登山口の近くのコンビニで、暑いときは冷たいもの、寒いときは温かいものを入手したいというのが山に登るときの大切な準備になりますので、コンビニの場所なんかは情報として必要だろうというふうに思います。

それから、温泉情報ですが、山に登った帰りは、やはり何といても温泉で汗を流すということで、登山口の近くの安い温泉の情報、場所、入浴料金、また、割引券があれば配布場所の情報ということで、例えば私、磐梯山に登ったときですが、道の駅裏磐梯で近くの温泉の割引券を配布しておりました。去年の秋ですが、磐梯山から下山した後、道の駅で割引券をもらい、近くの温泉で入浴してきました。苗場山から下山したときは、情報不足で、温泉に行ってから割引券が配布されていることを知って、そのときはグループで大人数だったんで、割引料金は大きかったかなと残念な思いをしたところでした。

3番目が、格安料金のビジネスホテルなどの宿ということで、遠くからいらっしゃる方は前泊として宿に泊まるわけですが、安い料金で泊まれる情報があればありがたいかなと思います。山に登るときは朝早くから出発しますんで、気軽に出発できるビジネスホテルなんかは人気があると思っております。それから4つ目がコインランドリーの情報。リタイア組で全国の名山めぐりをしてる方がいらっしゃいます。1週間ほどとか、私は1カ月もうちに帰らないとか、そういう方もいらっしゃいます。洗濯が必要ですので、車中泊をしながら衣類の洗濯をできる場所の情報が必要かと思っております。

あと、5つ目が、山岳ガイドの紹介であります。富裕層のリタイア組は山岳ガイドを使って

日本各地の山に登っております。長井市にもガイドがいらっしゃいまして、公益社団法人山岳日本ガイド協会の山岳ガイド、ステージ2の資格を持った方がいらっしゃいます。祝瓶山は直登コースの山頂近くが急な山であり、高齢者や初心者は山岳ガイドをつけたほうが安心して登られます。祝瓶山が人気があり、山岳ガイドの需要はあると捉えております。長井市では山岳観光の情報発信の内容はどのようなのか、どのようなツールを使っているか、商工観光課長に伺います。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 宇津木委員からございました山岳観光の情報発信の内容とツールについてのご質問でございますので、お答えをさせていただきます。

長井市の山岳情報につきましては、現在、長井市の観光ポータルサイトというもので主に情報を提供してございます。このサイトにつきましては、1日当たり現在3,500から5,000ぐらいのアクセス数がございます、長井市内では一番多く見られているサイトでございます。このサイトの中におきまして、水、山というカテゴリーの中に人気のある祝瓶山と葉山の登山情報として長井市近辺の道路情報でありますとか登山口及び登山ルート of 地図、そして所要時間、山荘の案内及びタクシーの案内を行っているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。この観光ポータルサイトについては、後でちょっと触れたいと思います。

それでは、先に進みたいと思います。

祝瓶山は、小国町側からの登山ルートもあり、長井市側と小国町側のお互いに登山客の取り込みについては競い合いになると思います。いかに長井市側からの登山が魅力的か、アピールする必要があると思います。私は、長井市側から

の登山が以下の4点で魅力的だと思っております。1つ目が、麓からと登山中に秀麗な祝瓶山が見えるところがたくさんあること、まず1番目が木地山ダム堤体付近、2番目が木地山山荘付近、この2カ所は木地山ダム湖を前景とした祝瓶山が見えます。3つ目が祝瓶山山荘付近、4つ目が角檜吊り橋と、角檜吊り橋の少し先、北側ですが、そこになります。5番目が桑住平手前、あと、周回コース、下山コースでは2カ所あります。これが6つ目になりまして、赤鼻分岐と、7つ目が赤鼻分岐と桑住平の中間点と7カ所もあります。それに比べて小国町側からのルートで祝瓶山が見えるのは、針生平の1カ所で、しかも積雪期に車道を外れた雪原からしか見えません。

長井市の魅力、2つ目が、展望がよいこと。祝瓶山の直登コースは、桑住平から30分ほど登りますと吾妻連峰や梅峰が見えて、さらに高度を上げると飯豊連峰や蔵王連峰、そして朝日連峰の主要部である大朝日岳や平岩山が見えて大パノラマが広がり、展望を楽しむことができます。

山頂までの直登コースは、アップダウンがないことが3つ目ということになります。桑住平からの直登コースはアップダウンがなく、無駄な下りも上り返しがなく、楽に登ることができます。

4つ目が、周回コースがあること。祝瓶山の直登コースから山頂を経由して赤鼻分岐に進む周回コースがあり、上りとは違う景色などを楽しむことができます。長井市側からの登山が魅力的であることをアピールしてはいかがでしょうか、商工観光課長に伺います。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 宇津木委員からございました祝瓶山の長井側からの登山が魅力的であることのアピールをというご質問に対してお答えをさせていただきます。

委員がおっしゃいますように、長井市側からの登頂につきましては、祝瓶山の特徴でもあります鋭利な岩山の山容を見ながら登ることができるということで、景観がとてもよいというふうに認識をしております。先ほど申しました観光ポータルサイトにも写真等を掲載しながら、同山の魅力について多くの方々にその魅力が伝わるよう改善していきたいというふうに思っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。

先ほど観光ポータルサイトということで、ただいまも答弁ありましたが、長井市観光ポータルサイトには良質な山岳観光の情報があると思います。しかしながら、市のホームページからたどり着けない状況であります。例えば市のホームページから祝瓶を検索しても、ポータルサイトに行ける方策がないかということで、ホームページ担当、地域づくり推進課長に伺います。

○蒲生光男委員長 谷澤秀一地域づくり推進課長。

○谷澤秀一地域づくり推進課長 宇津木委員のご質問にお答えします。

現在、市の公式ホームページには観光ポータルサイトのバナーを張っておりますが、市のホームページ上で祝瓶山と検索すると、そちらのホームページには真つすぐ行かずに、祝瓶山の状況とご紹介というふうに出てまいります。宇津木委員おっしゃいますように、山の様子やその写真は出てきますが、観光ポータルサイトに掲載されているような山岳観光情報、特に登山ガイドマップなどが出てきませんので、情報としてはこのままでは不足しているかなと思います。そこで、市のホームページから検索したときに観光ポータルサイトの詳細情報にリンクを張っていくことができないか、そして求める方に必要な情報が提供できるような仕組みができないかと考えておりました、具体的に情報システム係のほうと話をしましたところ、それがで

きると、市のホームページのほうから祝瓶山を検索して、そこに詳細な情報はこちらというふうに観光ポータルサイトへ案内するような、そういったリンクを張ることで解決できるということがわかってまいりました。ですので、早速更新して運用をしたいなと思うところでございます。ご提案いただきまして大変ありがとうございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 早速の対応、ありがとうございます。

これは山岳観光だけでなく、ホームページで検索したら、ワンストップで欲しい情報が入手できるのが私はベストだと思います。市のホームページとかポータルサイト、地場産のホームページと何かバラバラな感じがします。交流人口の拡大や地域再生には、誰が検索してもワンストップで情報が入手できることが大事だと思います。このことで市長のお考えがあれば、市長、お願いします。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 宇津木委員がおっしゃいますように、市のほうのホームページ、あと、観光ポータルサイトを含めた市民の皆様あるいは長井市のホームページを訪問していただいた方が知りたい情報がワンストップでできるシステムというのが構築されておりました。旧企画調整課の中に情報の担当があったわけですが、それは主にハード、システムのほうを主眼としておりまして、ソフトについてはバラバラでありました。今も、市報は今まで総務課のほうにあったわけですが、それを総合政策のほうに一元化して広報広聴を一つにまずしようと。それから、今はし切れてないわけですが、情報のソフトの部分も総合政策課の中でコントロールっていいですか、全部そこに集まって、それを地域づくり推進課のシステムのほうと連動させて、動画も含めたさまざまな魅力的な長井の

情報をぜひ一元化してワンストップでいろいろ知っていただけるような、あるいはそこからさらに、単なるホームページだけじゃなくて、インターネットの広告等々でそういった検索をしていただけるように、さらに広がるような横の広がりなども検討しなきゃいけないんじゃないかということで、まずは今回予算のほうにさまざまな形で新たな試みを計上させていただいたところでございます。今後ともよろしくご指導いただきたいと思います。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ぜひ情報の一元化、ワンストップ化を推し進めていただくようお願いしたいと思います。

今回の補正予算10ページ、2款1項2目広報費、細目番号001、市報発行業務420万5,000円の動画撮影編集委託料291万6,000円が計上されております。総務常任委員会協議会の説明資料によると、市のホームページやフェイスブックなどのSNS、ソーシャルネットワークシステムを活用して動画による情報発信をさらに充実し、途中省略ですが、単純にアップできるものについては市職員が編集を行うと記載されております。市のホームページとフェイスブックが同時期にアップされるのか、動画撮影編集委託業者と市の職員しか動画をアップできないのか、総合政策課長にお伺いします。

○蒲生光男委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 宇津木正紀委員からご質問のありました2点についてお答えさせていただきます。

まず第1点目の、ホームページとかフェイスブックの各ツールに同時期にアップされるかのご質問でございますが、効果的な情報発信とするために、同時期となるように思っております。また、委託業者と市の職員が撮影したものしかアップされないのかにつきましては、第三者からの提供も視野に入れまして、実は市で

は気づかない有意義な情報を得られる利点がありますので、第三者からの情報も視野に入れて、著作権の侵害など生じないようにアップロードに係るガイドラインを検討してまいりたいと存じております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 フェイスブックとホームページに同時期にアップされるということで、これ地域づくり推進課長にできなかつたらどうすると聞こうと思ったんですが、聞かないで済むようですので、次に進みたいと思います。

私は、動画の画像は山岳観光の情報発信にも大変効果的だと思っております。例えば木地山ダム湖からの祝瓶山のシーンでダム湖を渡る爽やかな風のさざ波、野川溪谷の清流とせせらぎの音、新緑のブナ原生林にそよ風が吹き、葉がさやさやと揺れるシーンなどなど魅力がたくさんあると思います。ぜひ山岳観光資源を動画としていただけないか、総合政策課長に伺います。

○蒲生光男委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 宇津木正紀委員のご質問にお答えいたします。

委員ご指摘のとおり、長井市におきましても、祝瓶山や木地山ダム、長井ダム、三淵溪谷、新緑のブナ原生林、三階滝など、いわゆる西山一帯におきましては豊富な観光資源がありますので、交流人口の拡大に寄与する情報として動画を大いに活用したいと思っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ぜひお願いしたいと思います。

あともう1点、動画について、動画撮影編集業委託業者と市の職員の撮影した動画だけでなく、先ほど著作権の問題もあるということでおっしゃっていましたが、委託業務終了後も多様で新たな動画を追加していくべきだ。新しいものですね、同じものは飽きると思いますので、

広報担当者は「広報ながい」や庁内広報の作成、「あやめR e p o」の編集、フェイスブックアップと業務量が近年ふえていると感じております。さらに動画の編集業務では大変で、手が回らないのではないかと感じております。そこで私の考えを述べさせていただきます。

2つ考えてみました。1つは、市内の方で動画撮影編集に秀でた方に嘱託職員として手伝ってもらうこと、もう一つは、動画コンテストを実施して、入選者の動画を市で使うこと、入選者の場合ですと、もう承諾を得るということで著作権の問題をクリアできると思いますが、これについては市長に伺いたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 宇津木委員おっしゃるように、やはり見る立場、閲覧する立場の方からすれば、動画というのは非常に魅力的ですので、特に山岳観光も含めたさまざまな地域資源、観光をPRするには必要不可欠だろうと思ってます。今回は職員と委託業者のほうでまずはやってみようということなんですが、考え方としては、例えば私ども特別職、私、副市長、教育長等々、市役所の動き、また、議会の動きももちろんいろんな形で動画などでも発信してるわけですが、それと、動画と市の方向性やら、そのときそのときのタイムリーな情報というのは、嘱託職員みたいなのが非常に重要だろうと思ってます。

その際に、市の業務内容と一体として進めていかないとなかなか難しいと。宇津木委員からありましたように、そういう非常にうまい方というのはいらっしゃると思うんですね。ですから、まず当面は職員と嘱託っていいですか、委託先と一緒にやって、状況を見て検討しなきゃいけないと思います。あと、場合によってはスポット的に、例えば今回の祝瓶の登山の動画なども、これはできれば宇津木委員とかにご協力いただきたいと思いますが、市民の立場になっ

での体験しながらの動画みたいなものを、囑託のそういう技能、技術を持ってる方にスポット的をお願いして、ここの部分をお願いできないかというふうなことでまずは考えていくべきなのかなど。あと、来年度あたりから、ことしの状況も踏まえながら囑託職員などの採用なども検討してみたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 前向きな答弁ありがとうございました。ぜひ、今すぐではなくても、だんだんということをお願いできればと思います。

それでは、3番目の山岳観光の魅力、知名度アップについて入りたいと思います。

山の魅力は、3つに分けてみたところですが、私の考えですが、1つ目が、麓から見た山容、山の形ですね、山の様子、2つ目が、登山しながら見える多様な景色や美しい花、樹木などの植物があるかどうか、あと、3番目が、山頂からの展望、山の上に登って見たら何も、ただ周りが低い山ということだとかなり悲しい感じがします。やはり祝瓶山のような周囲全部名山があるというような山は本当に登ったかいがあると思います。祝瓶山は、この3つとも満たしているとても魅力的な山であると思います。また、祝瓶山を含めた野川上流域は美しい景観だけでなく、貴重な生物もおります。クマタカ、イヌワシ、アカショウビンなど、バードウォッチングや写真撮影にも適しているところですが、このような魅力的なところですが、まだ知名度が低いということで、知名度アップの最も効果的なことは、国立公園磐梯朝日国立公園のエリア拡大であるというふうに思います。祝瓶山の山頂がちょうど小国側と長井市の境で外れてるんですね。ぜひ祝瓶山山頂も含めまして角樽沢と野川本流の合流地点まで、吊り橋がかかっているところですが、その地点まで国立公園に編入すること、そうすれば長井市の山岳

観光の知名度がアップするのに一番効果的だというふうに思っております。これまで何度か国立公園のエリア拡大のチャンスがあったと聞いていますが、残念ながらこれまでそのチャンスを生かせなかったと聞いております。国立公園のエリアが分かれたり、新たに拡大されると非常に宣伝効果がありますので、これから国立公園のエリア拡大に向けて、例えば長井市重要事業の要望として国に働きかけていく考えはないか、市長に伺います。

○蒲生光男委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 宇津木委員がおっしゃいますように、何回か働きかけがあったと思います。私が就任してからも、これは動機が、財政が厳しいときだったので、角樽吊り橋を国の支援を受けて改橋というか、改めてつくってもらうには国立公園の中に編入していただいて、そして環境省の補助事業などでできないものかということで、平成20年ごろだったと思いますが、県内の環境省の出先等々にいろいろ山岳関係の方から、あるいは市のほうからもちょっと問い合わせなどをさせていただいて可能性を探ったのですが、決して不可能ではないなという感触でございました。ただ、そのときは一部のほうから反対がありまして、ちょっと途中で頓挫してしまっただけですが、これから長井ダムが完成してかなりの県外の方々が登山客以外にも入っていると、貴重な財産といいますか、動植物を守るためにもぜひすべきではないかなというふうに思っておりますので、来年度の重要事業の要望も含め、関係の省庁等に働きかけを行っていきたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。ぜひ、国立公園のエリア拡大ということで市長も汗を流していただければと思いますし、私でできることだったらいつでもいたしますので、ぜひお願いしたいと思います。

次の項に入りますが、スポーツ用品メーカーのモンベルが山形駅近くに東北一売り場面積の広い店舗を開店しました。モンベルでは、この店舗を拠点にして山形県の山岳観光に寄与したいと表明しておるところです。そのモンベルの会員数は50万人いるそうです。私も会員の一人ですが、会員カードが毎年来まして、このようなカードです。これがすごいんです、後で説明します。

先日、モンベルから会員特典のガイドブックが届きました。50万人いるということで、この情報発信がかなり大きいというふうに思っております。例えば会員特典のフレンドエリア月山、朝日、飯豊、蔵王ですが、朝日町のAsahi自然観では、このカードがあれば宿泊料を10%割引、飯豊町の白川荘では入浴料400円が200円と、広川原湯ノ沢間欠泉湯の華では入浴料600円が300円と、さらに特典が大きいのは、がまの湯温泉いいで旅館では入浴料が400円を何と100円にということで、すばらしい割引があるということであります。長井市には、祝瓶山、葉山など、フレンドエリア月山、朝日、飯豊、蔵王に入っておるところです。約50万人の会員に長井市の山岳観光をPRする効果は絶大だと思います。市内の宿泊施設、温泉などを経営している事業所に情報提供をして参加を呼びかけることを検討してはいかがでしょうか、商工観光課長に伺います。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 宇津木委員からございました、フレンドエリア内のPRに市内の宿泊施設等に参加を呼びかけてはというようなご質問に対してお答えをさせていただきます。

委員からございましたフレンドエリアにつきましては、議員がおっしゃったメーカーの中でアウトドアライフをトータルにサポートするエリアというふうに私どもは認識しております。たしか西置賜管内では、施設としては飯豊町に

2カ所登録している施設があるというふうに認識をしております。確かに民間企業のPR力といたしますか、手法には柔軟な発想があるわけございまして、ぜひこちらについては活用していきたいというふうに考えてございます。

また、長井市の場合、山岳観光の拠点となる施設が現在ございませんので、それが今後の課題となっているところが現状でございます。今ある施設等をどのように活用していけるかも含めまして、先ほど委員からありましたように、市内の温泉施設等と一緒に検討してまいりたいというふうに思っております。以上です。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。

PRだけでなく、経済効果も出るかと思われますので、ぜひ進めていただければと思います。

ちょうど一昨年のきょう、6月23日、祝瓶山と同じ日本三百名山の浅草岳の山開き、こんなインターネットからとったやつなんです、立派なチラシをつくってホームページをつくっているのですが、それを見て山開きに参加しました。浅草岳は、今泉春江委員の出身地、福島県只見町と新潟県魚沼市の境にある標高1,586メートルの山であります。平成23年、新潟・福島豪雨災害で崩壊した只見町側からの登山道が復旧したことを記念して山開きが行われました。集合は午前5時、只見駅前広場でした。祝瓶山と同じ三百名山ですから大した人は集まらないと思っておりましたが、大型バス3台、マイクロバス2台が満員になるほど山開きは盛況でした。登り口まではバスで送ってもらい、登山記念バッジもいただき、参加料は無料でした。浅草岳は周回して下山口から只見駅前広場まで乗り合わせタクシー代600円、それしかかからなかったところでした。

この山開きについては、只見町と只見町観光まちづくり協会の共催事業でした。私は、車中泊、同行者はテント泊でしたが、町内の旅館や

民宿は恐らく満室だったと思います。私も入浴料700円の温泉に入り、昼食は1,150円のざるそばを食べましたが、私たちはちっぽけだったんですが、全体として山岳観光による経済効果は相当あったと思われます。この山開き行事に山岳観光振興のヒントがあると思います。只見町と只見町観光まちづくり協会の共催、地元山岳会の協力、一般社団法人の只見町まちづくり協会は、長井市が立ち上げようとしている観光プラットフォームと似たような機能を有しているのではないかと思います。長井市の観光プラットフォームの現在の進捗状況と目指す方向について市長に伺います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

観光プラットフォームにつきましては、来年の4月1日に法人化してスタートするという目標を、ことしの4月1日に準備会を立ち上げております。これは、会長を大山観光協会の会長に就任いただいて進めておりますが、狙うところは、宇津木委員がおっしゃるように、観光情報の一元化、ワンストップで長井の観光の知りたいところ、あるいは周辺の観光資源等々を紹介しつつ、なおかつ観光プラットフォームそのものでも、いわゆる着地型の観光商品をつくってそれを販売すると。会員は、地元のさまざま観光に限らず農家の方でもいいわけですが、いろんな形で観光にかかわる人たちに会員になっていただいて、その人たちとのネットワークで、お客様の立場からすれば満足して長井を楽しんでいただける、また、私どもとしては、せっかくいらしたお客様にしっかりと満足とお金も使っていただくと、そして地域経済を潤そうということで考えております。

したがいまして、私どもも財政再建のときは山岳観光については正直なところなかなかお金かけられなかったんですけれども、ようやく普通の市町村並みになったということと、加えて、

ブームというよりは、もう完全に定着してると思うんですが、山ガールという言葉も定着してますし、ここ10年ぐらいは中高年の皆さんのトレッキングっていいですか、そういったものはもう完全に定着してますんで、私どもの祝瓶山とか葉山とか、そういったところを中心とした、まずは初級・中級編のでしょうかね、そういったところの情報をしっかりと観光のプラットフォームの中で取り扱っていただけるように来年のスタートを目指して、まずは旅行業ですね、この登録を何とか年内中ぐらいにしなきゃいけないんじゃないかということで考えているところでございます。いろいろご指導いただきたいと思います。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。観光プラットフォーム法人化で来年の4月にスタートという目標だそうですが、ぜひ、山岳観光の課題として、経済効果がどうなるかということが私、問題かなと思ってます。金をかけた分、市内に経済効果がなければ、これ意味がないと、ただ、ただ、費用対効果がないのにお金をそんなにかけれないのではないかと考えておりますので、商品をたくさんつくって経済効果が出るような観光プラットフォームに期待しております。

それでは、長井シティプロモーション推進事業に関係した質問を行いたいと思います。

私が6月12日に行った一般質問で、シティプロモーション推進事業は、水を中心としたテーマ、水が豊かなふるさととの答弁を受けました。長井市の歴史と文化は、最上川舟運とは切っても切れない関係がありますし、また、フットパスなどもあります。しかしながら、野川上流部の山岳地帯は長井市の水源地域として重要な役割を持っております。水を中心としたテーマ、水が豊かなふるさとに長井市の野川上流部の水源地も取り上げていく考えはないか、市長に伺

います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 宇津木委員がおっしゃるように、長井は水が大変山形県では特化しているまちだと思ってます。そういった意味では、水をテーマにシティプロモーションの中でコンセプトメイクをしております、今ちょうどアフターDCで、ついこの間の土曜日も副市長に大田区の蒲田駅でそのキャンペーンに参加していただきましたけれども、同時に、JAおきたまの長井の青年部のほうでも役員の皆さんに参加いただいてPRの協力をいただいたわけですが、これからは私も、山の港町というふうにキャッチコピーで言っていたわけですから、それと水とは切っても切れないと、したがって、今年度のシティプロモーション事業の中で、これから百秋湖と、あと三淵の周遊観光っていいですか、百秋湖を船でめぐると、何ていうんでしょうかね、クルーズとは言えないでしょうけども、そういったところも含めてそういったシティプロモーション事業に生かすべく、今年度にさまざまな計画をしております。これはやっぱりいろんな方々、市民の皆様の活動がないと、このシティプロモーションというのは行政の活動だけではございませんので、ぜひいろいろご提言などいただければありがたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 ありがとうございます。日本百名山の最初に触れたグレートトラバースですが、田中陽希が日本百名山に続く新たな百座、日本二百名山一筆書きということで、グレートトラバース2が今行われておるそうです。ぜひこれも好評で、第3弾の日本三百名山グレートトラバース3がなされ、祝瓶山に長井市側から登るとか、下るとかしていただくことを期待して、質問を終わります。

小関秀一委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位2番、議席番号11番、小関秀一委員。

○11番 小関秀一委員 非常に穏やかな梅雨の日を迎えました。ところが、昨日などは集中豪雨というか、いつとき大雨になったり、特に北部、白鷹、山形など、突然の落雷等で大分停電など被害もあったようで、この時期、2年続きの豪雨を経験した中でありましたし、常に自然災害の対策なり、心構えについては本当に大事なんだなとときのうも感じさせられました。

さて、予算総括をさせていただくわけですが、一般質問でもいろいろ、特に総合戦略、いわゆる地方創生にかかわる質疑、やりとりが行われました。特に今回の補正では、地方創生の具体的な推進の事業費として1,365万6,000円ほど計上になっているということですので、地方版総合戦略の作成については、先ごろの説明でありますと、ことしの9月をめどに作成をして国の認可を受けると、そして5年間のとりあえず計画の中で地域づくり、特に人口減少等に歯どめをかけるような特徴ある施策を実施していくというふうなことでありますので、この推進の計画づくりについては期待もし、長井市の遠い将来までも結びつけられるような政策策定になるように願っております。

それで、具体的にご質問させていただく項目であります。特に今、各地区で地域づくり計画を策定しようという準備をされております。例えば平野地区であります。一昨年10月に既に策定委員会が発足しまして、ことしの3月には計画書がまとまって、これも市当局というか、市長に提出をしておりますが、ついこないだ6月17日に平野地域づくり協議会がもう既に設立をされております。この計画策定までには、